

# PDF の変換例

@plass

2020/9/28

## 1 目的

PDF に変換できるマークダウンの記法を学ぶ。

## 2 見出し

### 2.1 h2 見出し

#### 2.1.1 インライン数式

インライン数式はドル記号\$で囲って、 $V = R \times I$ のように TeX と同じ書き方で書くことができる。

#### 2.1.2 番号付きディスプレイ数式モード

数式ブロックはドル記号 2 つ\$\$で囲む。`{#eq:equation}`を最後につけることでラベルを貼れる。参照は`[@eq:equation]`のように書くことができる。

不純物濃度の深さ方向分布は式 1 の拡散方程式を解くことで得られる。

$$\frac{\partial N(x, t)}{\partial t} = D \frac{\partial^2 N(x, t)}{\partial x^2} \quad (1)$$

また、`\begin{eqnarray}`が使えるので、イコールを揃える時はこちらを使うと良い。

$$x + y = 5 \quad (2)$$

$$x = 2 \quad (3)$$

式 2 を解くと、 $y = 3$  が得られる。

### 3 tex コマンド

一度 `.tex` ファイルに変換してから PDF に変換するので、`tex` のコマンドも使用できる。例えば、`\clearpage` を使うことで改ページができる。

改ページ前↑

改ページ後↓

## 4 画像

画像はマークダウンと同じ記法で書くことができる。文末に`{#fig:LABEL}`とすることでラベルを付与できる。`{#fig:LABEL height=100mm}`とすることで、画像の大きさも調整できる。

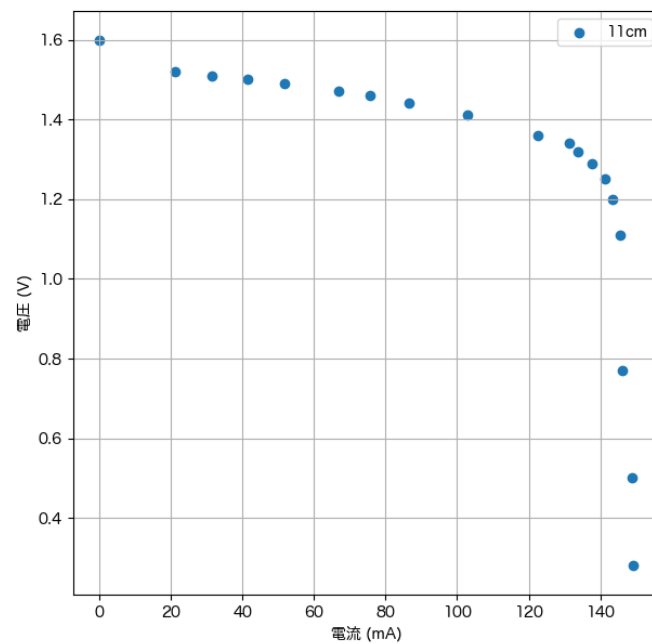


図 1: 太陽電池の出力特性

`[@fig:LABEL]` とすることで、参照を貼れる。

太陽電池の出力特性を図 1 に示す。

## 5 表

表のタイトル、ラベルは:タイトル `{#tbl:LABEL}` のように書くことができる。

表 1: 標本化周波数を変えたときの観測周波数の変化

標本化周波数 (kSa/s)	観測周波数 (kHz)
100	6.1
250	53
500	100
1000	100

表への参照を貼る時は [tbl:LABEL] のように書く。

標本化周波数を変えたときの観測周波数の変化を表 1 に示す。

## 5.1 セクション参照

[sec:LABEL] と書くことでセクションを参照できる。

節 5.1 によると、セクションの参照も可能である。

## 6 注釈

注釈<sup>1</sup>

## 7 マークダウン記法

- 箇条書き 1
  - サブ箇条書き 1
  - サブ箇条書き 2
- 箇条書き 2
- 箇条書き 3
- 1. 番号付きリスト 1
  - 1. サブ番号付きリスト 1
  - 2. サブ番号付きリスト 1
- 2. 番号付きリスト 2
- 3. 番号付きリスト 3

太字

取り消し線

水平線

---

google へのリンク

コードブロック

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {  
    printf("Hello World\n");  
}
```

listings パッケージ

---

<sup>1</sup>注釈とはほげほげ

```
1  #include <stdio.h>
2
3  int main(void) {
4      printf("Hello World\n");
5  }
```

Listing 1: ソースコード